

埋蔵文化財調査室

小倉名物 三官飴の



あめつぼちゃん

『埋蔵文化財調査室』略して『まいぶん』。
まいぶんのお仕事や職場って、どんな感じかな？
先輩職員の2人にインタビューしました！

財団を受験したきっかけについて教えてください。

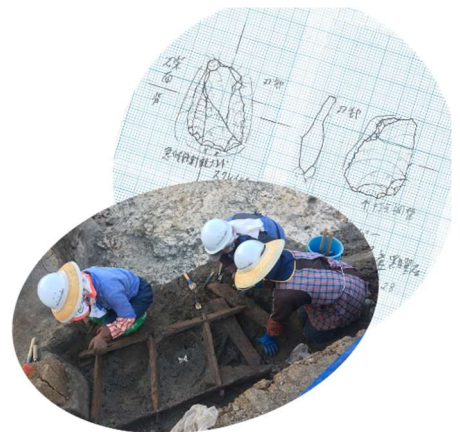
- Y 家庭の事情で考古学の夢を断念したので、子育てを終えて好きな事に関わることができる仕事がしたいと思ったのが一番の理由です。
- M 元々舞台や音楽、歴史が好きだったので、その中でどれかに携わって、専門的に働いている方などの力になれる仕事がしたいと思って受験しました。

これまでの業務や出来事で、印象に残っていることはどんなことですか？

- Y たくさんありますが、一番は、小倉拘置支所(北九州市小倉北区)の建て替え工事に伴う発掘調査で「長崎街道」の一部が良好な状態で往時のまま見つかったこと。(新聞に載りました)
学芸員、作業員が毎日毎日一生懸命、頑張って掘り出した街道の美しさに感動したこと、その膨大な仕事量と真摯な作業を思うと、心から尊敬の念を抱かずにいられなかったことが忘れられません。
- M 発掘調査の現場で遺構の一部の保存が行われたことです。普段埋め戻されることの多い遺構が残されることも嬉しかったですし、契約手続きや、支払い業務で少しでも関わられたことも貴重な経験になったかなと思いました。

埋蔵文化財調査室の仕事で、やりがいや面白さを感じる点は？

- Y 担当している労務管理は、埋蔵文化財調査室で雇用する臨時職員さんのすべてと係わることになります。個性豊かで大変な時もありますがみなさんと一緒にお仕事できることがとても楽しいです。
また担当事務としての意見が反映されやすい恵まれた環境です。それは同時に、担当(自分)にしか気づけない視点があるというプレッシャーでもあります。かなりやりがいがあり、自発的に仕事することの面白さを実感できます。
- M 担当している経理事務は、年度の支払いが無事に全て終わったときに、1年間やりきった達成感も大きくやりがいを感じます。
個人の意見が取り入れられやすい環境で、事業がしやすいように予算などを考えられる点に面白さを感じています。



—— 職場で自慢できることはどんなことですか？



☑ 携わった埋蔵文化財事業のすべての報告書に自分の名前が載ります。国立国会図書館などの大きな図書館で、いつでも当時の自分に出会えます。それだけに自分の仕事に責任と誇りを持てる職場です。

☑ 自慢は、弥生時代の土器や近世の陶磁器などを実際に近くで見られて触れられることです！ 博物館で見る展示品とは違うリアルさを感じることができる気がします。

また、職場の方々はおタク気質な人が多いところも自慢？ のひとつです。

—— これから受験される皆さんに、メッセージをお願いします。

☑ 少数精鋭のため入職した瞬間から何かの『担当』になり、ひとりで担当業務をこなすことになります。そういう意味では入職直後が山場かもしれません。最初こそ前任者の事跡やマニュアルと会話しながら仕事に追われると思いますが、仕事が馴染んでくれば違う景色が広がります。がんばってくださいね。

☑ 北九州市芸術文化振興財団はどの部署も専門性があるって、芸術文化の裏側(舞台の裏側やどんな仕事があるのか)などを知ることができる、面白い職場だと思います。なかなか他では味わえない環境や業務なので、ぜひ入職して、芸術文化に対するマニアックさを深めてください。